

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和元年度第1回学校運営協議会
- 2 開催日時 令和元年5月10日（金）13:30～15:10
- 3 開催場所 不破高等学校校長室
- 4 参加者 委員 竹内 治彦 岐阜協立大学学長
長谷川 妙子 関ヶ原町教育委員
原川 拓雄 不破中学校校長
北澤 みさ子 宮代保育園・幼稚園園長
田宮 仁史 特別養護老人ホームいぶき苑 施設長
高木 佐知子 地域住民
高木 淳一 不破高校PTA会長

学校側 内木 晃 校長
橋 博 教頭
鈴木 孝慈 生徒支援部長

学校説明

5 会議の概要（協議事項）

(1) 会長・副会長の互選

- ・会長に竹内委員、副会長に和田委員を選出。

(2) 学校説明

- ・学校紹介ビデオ上映
- ・平成30年度学校運営協議会のまとめ
- ・近況報告
- ・令和元年度事業計画

(3) 学校運営の方針の承認

- ・学校経営計画（教育指導の重点、学校経営計画（高等学校版マニフェスト））、学校組織編成について、それぞれ承認。

5 意見交換

- ・H30年度は学校のPRをしてもらった。地域交流でボランティア活動に参加しているが、受け入れてもらっているところに対話をしてもらいたい。そのことによって生徒に、地域というものがより印象付けられる。
- ・自己探求の授業について、自己探求とは自問自答のことだと思うが、生徒が普段の生活の中で自問自答できるようになれば良い。
- ・タンポポの分布調査が楽しみである。小中との連携が上手に行くことによって不破郡内で不破高校がこのようなことに取り組んでいるということが知れ渡ることになるし、小学生・中学生に不破高校の印象が残るとともに、不破高生にとっても地域の印象が残る。
- ・少人数コミュニケーション講座の生徒が先生との関係がよく、どんなことにも一生懸命なところが見えた。そうなるためにどのような取り組みをされているのかが大切である。
- ・新入生へのアンケートについて、「熱意のある教員がいる」という項目で「当てはまらない」、[あまり当てはまらない]という回答が少し多いのはまだ入学してからの日が浅いからだと思われる。見えないところでの教員が行っている環境づくりや日常の生徒とのふれあいが効果を上げ

と思う。在校生の教員への印象が言葉としてあるとそれが積みあがってよい。人間同士のつながりが大切だと感じられた。

- ・ボランティアで毎年施設訪問をしてもらっている。また、企業訪問をしてもらったり、地域貢献の内容で講演をさせてもらった。地域貢献策の事業として行っているおもちゃ図書館にもかかわってもらいたい。
- ・町が実施している中学生対象のアンケートで、ボランティア経験がある生徒と将来地域で活動したい生徒との相関関係が非常に高いという結果であった。その意味で、まずはボランティアに参加してみるという地域へのかかわり方も重要ではないか。
- ・介護業界の課題でもある担い手不足について、離職率が高くなっている。同業他社への転職ではなく他業種への転職が増えている。3年離職率という指標があり3年継続できればその後も継続できる。継続してもらうために新入社員にはマンツーマンで指導しているが、指導後のケア・サポートをどのようにしたらよいかという相談を進路支援部とさせてもらいたい。
- ・授業を参観させてもらって、不破高生が幼稚園・保育園で実習する狙いがわかりこの会に参加させてもらってよかった。園児も喜んでいる。高校生は当たり前のことでもほめてくれる、園児との交流の中で園児も高校生も自己肯定感・存在価値を感じお互いに育ちあう良い機会になっている。
- ・垂井町の保幼小中・18までの連携事業であるあいさつや読書・読み聞かせにからめて、不破高生との挨拶によってより挨拶できるようになり、不破高生の膝の上に園児を座らせて読み聞かせをしてもらっていて今年度も継続する予定である。
- ・保育士の担い手も不足しているが、実務実習に来られている学生さんと今度来られる方は不破高出身者である。このような面でもつながりができてよい。
- ・昨年度特別支援教室の実践でお互いに授業参観するという交流させてもらった。課題は自分の困り感をどのように自分でとらえて、自分でどのように乗り越えることである。自分なりの学び方を身に着けていくことが大切である。その点で不破高校での少人数コミュニケーション講座に期待している。言葉が出ないからコミュニケーションが取れなかったり、学び方がわからないから学習に向かえないことに対して、それらを学ぶことができることを中学生に伝えていきたい。
- ・中学校の部活動で頑張っていた生徒も入学しているので、なにか活躍の場を作ってもらいたい。
- ・卒業式での校長先生の、世の中は平等ではない、それぞれにしっかり生きていくようにというリアルな言葉に感動した。
- ・昨年度の入試で全員を合格させていただいたことにいろいろな意味があると思う。
- ・特別支援学校に進学したほうが本人のためには良いかもしれないというところに不安を持ちながら一生懸命に取り組んでいただいている。
- ・入学して3年後の進路のために一人一人を良く見て声掛けしていただき、アドバイスして自分で考えていけるような細やかな流れが感じられた。
- ・中学校の進路指導と高校の在り方については課題が大きいと感じられる。
- ・学校の説明はわかりにくかった。この学校で起こっている現象を様々に紹介してもらった。紹介してもらった様々なことにさまざまに意見をもらった。学校運営協議会がどうゆう形で運営されていくのが未知数である。活性化協議会の時にも活性化協議会は何をするのか、学校評議委員会とどこが違うのかをはっきりさせなければならないということを行った。活性化協議会がなくなって、学校運営協議会1本建てになって今回ある。この会議がどういう形でやっていくのかということを見ると、学校で起こっていることを紹介してもらって、それについてのコメントをしていくという運営では生産的ではない。そういう点で分かりにくいので、もう少し何かがあってもよい。
- ・近況報告の5つの事柄がなぜ選ばれていて、どのような関連があるかがわからない。事業計画が3つ挙げられているが、近況報告からどのように導かれてこの3つになっているかがわからない。
- ・不破高校を何とか活気づけたいということはわかるが、それがどういう教育ビジョンなのか、どういう仕掛けでこれが考えられているのかという説明が少なかった。
- ・様々な加配を受ける中で少人数教育ができていて、あるいは特別支援教育ができていてという説明だったが、これが将来的に持続可能な手当てとしてあるのか。教育モデルをどのような形で発展させたいのか、特別支援科の先生の協力がなくてもできるようにという説明はあったが、全体

の設計がどうなっていて、その中でどのような課題があって何を解決しなければならないのかという説明がなかった。

- 教育モデルとして機能しているのかどうか、発展可能性があるのかを理解してコメントすることは今日の説明ではできない。
- 高校としてのビジョンと課題、課題に対して解決したい事、そのために取り組んでいることを説明してもらえれば、評価することはできる。
- 網羅的な情報を与えられただけでは雑駁な印象を述べることはできない。
- 学校としてのビジョンや仕掛けを説明してもらうことが必要であった。
- 運営協議会としてやっていく中ではこのような点を意識してもらいたい。

6 会議のまとめ

- 今回提案した事業計画を中心に、個々の生徒の自己実現を図るために取り組んでいきます。